

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 看護マネジメント学分野	修了年度	平成 28 年度
氏名	佐藤 智美	指導教員 (主査)	河津 芳子

論文題目	キャリア中期にある看護師の職業性ストレスの特徴とキャリア・アンカーとの関連
------	--

本文概要	
<p>キーワード キャリア中期・職業性ストレス・キャリア・アンカー</p> <p>目的：キャリア中期の看護師の職業性ストレスの特徴とキャリア・アンカーとの関連を明らかにし、彼らに対して看護管理者が行うべき支援についての示唆を得る。</p> <p>方法：無作為に抽出、同意を得た施設に勤務する 35 歳～45 歳の常勤看護師 1468 名に、属性、職業性ストレス簡易調査票、キャリア・アンカーについて問う調査票を配布した。分析は、Mann-Whitney の U 検定、Kruskal-Wallis 検定等を行った。</p> <p>結果：調査票の回収率 69.3%、有効回答数 953 名、有効回答率 93.6%。職業継続意志は、継続希望 844 名 (86.9%) であった。高ストレス者 267 名 (28.3%) で、職業継続意志がない者・未婚者・子供無は高ストレス者が多かった。下位尺度では、役割有の者は「心理的な仕事の負担量・質」のストレスが高く「働きがい」「周囲からのサポート」は低かった。キャリア・アンカーの結果は「生活様式」が最も高かった。職業性ストレスとキャリア・アンカーとの関連では高ストレス者は、「自律・独立」・「保障・安定」のタイプが多かった。</p> <p>考察：既婚者・子供有の者、役割を担う者は、心理的な仕事の量・質はストレスが高いが、働きがいを持っており、周囲からサポートを受けているため、ストレスが軽減されていると考えられる。また、ライフイベント的にキャリアは停滞しやすい可能性がある。彼らへの支援には、仕事量の調整、身体面への配慮、専門職の自律性を育てる関わり、スキルアップ、人間関係の良好な職場風土の構築が示唆された。</p> <p>結論：キャリア中期のストレスは、既婚者、子供有群が低いことが明らかになった。また、キャリア・アンカーは、未婚者は専門職能別コンピタンス、奉仕・社会貢献を、既婚者は生活様式にアンカーをおいている率が高かったことから、既婚者は、ライフイベントとの関連が強いことが分かった。しかし、周囲からの支援得て継続している。一方、未婚者は支援が少ないと考えられるが、アンカーがより職業への志向に強く置かれていることが明らかであった。職業性ストレスとキャリア・アンカーの関連で「保障・安定」のアンカーはストレスへの影響があることが分かった。</p>	